

平成28年度中央畜産技術研修会について

～ 農業者の方も受講できるようになりました ～

この研修の受講者は、原則、国、都道府県等の職員に限られておりましたが、平成27年度から、農業に従事している方も参加できるようになりました。

○ 受講対象者

- (1) 国の職員
- (2) 都道府県または市町村の職員
- (3) 独立行政法人又は地方独立行政法人の職員
- (4) 株式会社日本政策金融公庫及び畜産関係の団体の職員
- (5) 農業に従事している者（従事しようとしている者を含む。）

○ 受講申請の提出先

受講申請書を、農林水産省生産局長へ直接、又は各都道府県及び市町村等経由で提出してください。

農林水産省生産局長に提出する際の宛先

・ 郵送する場合

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省生産局畜産部畜産企画課企画班
中央畜産技術研修担当者 宛

・ FAX 送信する場合

FAX 番号：03-3501-1386

農林水産省生産局畜産部畜産企画課企画班
中央畜産技術研修担当者 宛

○ 農業に従事している者が出席することに適した研修内容一覧

(1日だけでも受講可能です)

研修名	研修日程	農業に従事している者が出席することに適した講義名（講義日）
畜産環境保全 (堆肥化处理・利用 技術)	7月11日 ～15日	・ 堆肥の利用促進、耕畜連携を進めるには ・ 畜産環境をめぐる情勢 (7月15日)
畜産環境保全 (臭気対策技術)	7月19日 ～21日	・ 畜産における臭気防止の基礎 (7月19日) ・ 設備、装置による脱臭技術の基本と各種脱臭法 (7月20日) ・ 畜産における悪臭対策の基本と苦情対応 (7月21日)

研修名	研修日程	農業に従事している者が出席することに適した講義名（講義日）
飼料 A・B	8月30日 ~9月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・食品残さ等飼料化技術 (9月1日) ・食品残さ利用の養豚農場実践事例 ・オルガナイザーの果たす役割 (9月2日)
畜産環境保全 (耕畜連携堆肥利用 促進)	9月6日 ~8日	<ul style="list-style-type: none"> ・優良堆肥の条件と施用の基本 ・家畜ふん尿からの良質堆肥の生産と利用方法 (9月6日) ・畑作における堆肥施用の基本と現場利用 ・耕畜連携における堆肥利用の経済性と組織対応 ・地域における堆肥の循環利用の促進 ・水田作における堆肥施用の基本と現場利用 (9月7日) ・野菜作における堆肥施用のポイント ・総合討論 (9月8日)
放 牧	9月27日 ~29日	<ul style="list-style-type: none"> ・経営視点から見た放牧技術の評価お展望 ・放牧牛の衛生管理 (9月27日) ・放牧管理技術 ・放牧草地化利用技術について ・水田、里山、耕作放棄地へ肉用牛放牧をすすめるために ・放牧の実務 (9月28日) ・高張力線牧柵の設置実習 ・簡易電気牧柵の設置実習 (9月29日)
肉用牛	10月4日 ~7日	<ul style="list-style-type: none"> ・牛の疾病対策、農場 HACCP の推進について ・肉用牛（肥育）の栄養管理 ・量販店から見た牛肉需要 (10月5日)
酪 農	11月8日 ~11日	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料生産用機械の技術革新 ・乳用牛のベストパフォーマンス実現のために ・自動搾乳システムに適する乳牛飼養管理技術 (11月9日) ・NOSAI 山形の家畜疾病予防の取り組み ・牛群検定データによる適切な農家指導について (11月10日) ・酪農ヘルパーを巡る情勢 (11月11日)

研修名	研修日程	農業に従事している者が出席することに適した講義名（講義日）
自給飼料 (WCS・飼料用米)	12月6日 ~8日	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料用米の生産・利用の拡大に向けた取組 ・水田における飼料作物生産拡大の意義 (12月6日) ・飼料用イネの品種 ・飼料用イネの低コスト多収栽培技術 ・飼料用イネの給与技術 ・稲発酵粗飼料の収穫調製技術 ・飼料用米の収穫と加工調製技術 (12月7日) ・地域における耕畜連携の進め方 (12月8日)
畜産環境保全 (畜舎污水处理技術)	1月16日 ~20日	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産業に関わる排水規制と排水基準項目 ・活性汚泥法污水处理技術の原理 (1月16日) ・污水处理技術の基本 (1月17日)
肉用牛繁殖経営新規 参入	1月23日 ~27日	<ul style="list-style-type: none"> ・肉用牛の改良をめぐる情勢 ・食肉流通の現状と課題 (1月23日) ・肉用牛繁殖経営における牛の飼養管理 ・子牛の衛生管理技術及び飼養管理 (1月24日) ・肉用繁殖牛経営におけるふん尿処理技術 ・肉用繁殖牛のための飼料生産・調製 ・肉用繁殖牛の放牧管理 ・肉用繁殖牛の放牧草地の造成管理利用 (1月25日) ・牛の肉質評価技術について ・牛個体識別業務の現状 ・自己経営診断手法のための記録、記帳 (1月26日) ・現地実習 (1月27日)
e-ラーニングで学ぶ 経営分析	2月7日 ~9日	e-ラーニングによる経営分析の実践、分析結果の用、事業計画の管理を体験することで、継続的な学習のための基礎知識の習得

研修のスケジュール、受講申請等の詳細は、農林水産省及び独立行政法人家畜改良センター研修所のホームページをご参照ください。

農林水産省ホームページ

http://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/l_tiku_manage/index.html

(独) 家畜改良センター中央畜産研修所ホームページ

http://www.nlbc.go.jp/i_gizyutsu/menu.asp



問い合わせ及び詳細（ホームページ）

* 生産局畜産部畜産企画課企画班

03-3502-8111（内線4893）

* 独立行政法人家畜改良センター中央畜産研修所

0248-25-7060